

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年7月19日(木)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

“思いを馳(は)せる…” 西日本豪雨

昨年度のちょうど今頃、九州北部で集中豪雨が発生し、その大きな被害に心を痛めていましたが、また大きな災害が発生してしまいました。

『西日本豪雨』…6月末に発生した台風7号などの影響で梅雨前線が活発化し、7月6日以降、11府県に大雨特別警報が出されました。土砂災害や22河川に上る堤防決壊で人的被害が甚大なものとなりました。亡くなった方は17日の警察庁の発表で14府県の223人。平成以降の豪雨災害で初めて100人を超えました。さらに、17日正午時点で16府県で約4800人が避難生活を送っています。被災地の様子は、連日のように報道されていますが、その中にこんなニュースがありました。

西日本を中心とする豪雨災害で延期されていた第100回全国高校野球選手権記念広島大会が17日、始まりました。友人が行方不明になった球児が、開会式の選手宣誓で自身の決意を語ったニュースです。

「どうにもならない無力感も感じました。今なお困難な状況にある仲間もいると思います。」

選手宣誓をした安芸南高校の田代統惟(とうい)主将は、被災した地元の姿に衝撃を受けました。激しい雨が降り続いた6日から一夜明け、彼は、広島市安芸区の自宅近くに土砂や濁流が流れ込んでいるのを目の当たりにしました。

倒壊した家屋、分断された道路、流された車など…。

自分は今どう行動するべきなのか…。

「お前にできることをやってこい。」監督がそう言いました。彼は、照りつける日差しの下、友人12人で母校の小学校付近の土砂の撤去に汗を流しました。その土砂は、日頃整備するグラウンドの土より何倍も重たかったそうです。「心も重たかった。」と彼は言います。

そんな中、中学の同級生で仲が良かった友人が行方不明だと知りました。11日朝から捜索に加わり、土砂をかき分けました。

「もしかしたらどこかに隠れていて、けろっと帰ってくるんじゃないか。そうであればいいのに。」

100人を超える同級生や教員らと彼を捜しました。朝から夕方まで重い土と向き合い、日が暮れる頃、チームメイトとキャッチボールをしました。「早く仲間と野球がしたい。」という思いが募る一方、「野球をやっている場合じゃない。」とも思ったそうです。

練習が15日に再開されました。被災はしたが、「今までよりチームの結びつきが強くなった。それぞれが自分で考えて行動し、成長できた。」と感じたそうです。

6月23日の抽選会で「1番」の札を引き、宣誓文はチームメイトや監督と話し合っただけで決めていたそうですが、自分たちの今の気持ちを伝えなければならないと、書き直しました。

「故郷の現状を伝え、自分たちの全力のプレーで、広島に元気を与えたい。」

そして、田代君は17日の朝、こう宣誓しました。

今日、ここに大会が開催されること、野球ができることに感謝します。

7月6日、記録的な豪雨が西日本を襲いました。多くの命が失われ、今も被災されている方々もいます。亡くなられた方々に哀悼の意を表します。

私の地元は(広島市 安芸区)矢野です。7日の朝、私が見た景色、矢野が矢野でなくなっていたように感じました。

どにかく行動せずにはいられませんでした。その中でどうにもならない無力感も感じました。今なお困難な状況にある仲間もいると思います。しかし、私たち一人ひとりにとって、選手権大会は一回きりのかけがえのないものです。

どんな状況も克服し、それを乗り越えて挑戦します。それが野球だから。



その積み重ねが100回目を迎えました。

今回は、私たちの成長、私たちの闘う姿を見てもらう大会です。被災された方々に勇気と力を与えるように全力でプレーします。

家族、指導者、チームメート、私たちを支えてくれた全ての人々への感謝を胸に、がむしゃらにプレーすることを誓います。

平成30年7月17日

広島県立安芸南高等学校野球部主将 田代 統惟

広島県内では道路の寸断や球場の断水、高校グラウンドの浸水などの被害があり、全国の56地方大会の中で最も遅い開幕となりました。広島県内の犠牲者は17日朝時点で111人にのぼりました。7日にマツダスタジアム（広島市南区）で予定していた総合開会式は中止され、この日は県北の三次（みよし）市の球場で開会式が行われました。出場全88チームは集まらず、第1試合に出る2校の選手だけが整列し、追悼の半旗が掲げられる中、犠牲者に黙とうが捧げられ、田代君の宣誓が行われました。

「私たち一人ひとりにとって、選手権大会は一回きりのかけがえのないものです。どんな状況も克服し、それを乗り越えて挑戦します。それが野球だから。」

この選手宣誓の映像を目にし、そしてこの言葉を聞いた時、思わず胸が熱くなりました。

この上ない困難な状況乗り越えていこうとする強い意志、心底打ち込んできた野球に今の自分の全てを賭けて何かを得ようとする前向きな姿勢に深い感銘を受けました。

今、被災地から遠く離れた場所にいる我々にとって、「遠いところで大変な事が起きている。」では済まされることではない。田代君の魂のこもった宣誓を見て、より一層そんな思いを強くしました。

東日本大震災を経験した我々だからこそ、「思いを馳(は)せる」(遠方の人や物事に思いをめぐらせる)、そして、他人事ではない「思い」をしっかりと見つこと。哀悼の意を示すこと、命の大切さ、絆や思いやり、貢献、自然の力への畏敬の念、さらには防災意識の高揚や危険回避能力の体得など、今の自分の立場や状況をさまざまなことに結び付けて考えることが必要です。その上で「賢い支援」とは何かを考え、できることから行動に移していくべきであると思うところです。

(昨年度の1学期の終業式でも、九州北部暴雨を受けて同じような話をしています。)

保護者の皆様へ

■ 6月18日に発生した「大阪北部地震」では、登校中の小学生がブロック塀の下敷きになる痛ましい事例がありました。本市でも調査が実施され、その対応がとられています。本校では、校庭の外トイレの目隠しがブロック塀だったため、取り壊されました。安全な別なものでの目隠しを検討中です。また、校庭北側と東側にある用水路についても、児童生徒の安全確保の面から、その対策が検討されているところです。



ブロック塀のあった場所

■ 7月10日（火）には「富田中学校校区地域サポートチーム総会」が本校を会場に開催されました。富田地区内の町内会、関係団体、警察、行政機関、保育所、幼稚園、各学校の代表が一堂に会し、平成29年度の事業報告・決算報告、平成30年度の事業計画・予算等についての協議、各学校からの1学期の反省と夏休みに向けての話があり、最後に情報交換が行われました。「児童生徒を地域が守る」という理念の下、あいさつ運動や標語コンクールによる「地域づくり」や児童生徒の健全育成をめざし活動を展開していきます。



校庭外周にある用水路

■ 次のようなPTA各委員会活動等も積極的に行われています。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

- ① 7月5日（木）には、29日（日）に開催されるPTA北ブロック親善球技大会の「結団式」が行われました。混成バレーボール、家庭バレーボール、ソフトボールの各種目に出場される選手の方々が出席されました。種目毎に練習も始まっています。ケガ等のないよう、親睦を深めていただきたいと思います。
- ② 7月7日（土）には、鬼子母神例大祭の開催に伴う育成委員会による夜間補導が行われました。夜の補導活動、お疲れ様でした。また、月2回の朝のあいさつ運動へのご参加もありがとうございます。
- ③ 広報委員会の方々におかれましては、7月20日（金）に発行されますPTA広報誌「えの木」の編集作業、ありがとうございました。